

第 4 回 大阪府四條畷市未来技術地域実装協議会 議事概要

■日時 令和 5 年 5 月 9 日(火)午後2時～

■場所 四條畷市立グリーンホール田原

【議事要旨】

事務局から出席者紹介

開会

主催者挨拶

(四條畷市長 東 修平)

本日はお忙しいなか、第 4 回大阪府四條畷市未来技術地域実装協議会にご参加いただきありがとうございます。規約にございますとおり、地域主体の持続可能なまちづくりを四條畷市として国へ提案させていただき、令和2年度から内閣府によって未来技術社会実装事業として選定された状況でございます。くしくも令和2年度が新型コロナの流行り始めたタイミングでございます。感染症などの対応を行う中でこの協議会としても、皆様に様々なご協力をいただきまして、少しずつではありますが歩みを進めてまいりました。本日は令和4年度に行った内容、令和5年度に行う内容についてご説明いたします。皆様からの活発な意見をいただければと思っております。

また大阪国道事務所長の七澤様には現地支援責任者としてお力添えいただいております。本日もご参加の皆様には各方面からの多大なるご支援、ご協力をいただいております。心から重ねてお礼を申し上げます。簡単ではございますが、開会のあいさつと代えさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

現地支援責任者 挨拶

(近畿地方整備局大阪国道事務所 七澤所長)

ただいまご紹介いただきました大阪国道事務所近畿地方整備局 事務所長の七澤と申します。ご参加の皆様方、日頃より国土交通行政に多大なるご理解、ご協力をいただきお礼を申し上げます。この事業に関しまして、市長からお話ございました通り、令和 2 年度に内閣府より未来技術社会実装事業として採択され、その後四條畷市におかれ自動運転技術などの社会実験、またその検証を着実に進めていただいているところでございます。昨年 10 月に私自身も自動運転車に乗らせていただきました。いくつか課題もありながらも、その可能性を改めて強く認識しました。これからの令和 5 年度 6 年度に向けての社会実装、すなわち実用化が大きな目標になってきます。私どもも、現地責任者として、これからの実用化に向けた取り組みについて、しっかりと支援していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

報告

(事務局)

大阪府四條畷市未来技術地域実装協議会規約の改正について

(事務局から説明)

第3条2項 について以下の通り変更

旧:相談役は、田原地域に属する地域自治組織の代表者とする。

新:相談役は、四條畷市が現地支援責任者と協議のうえ指名した者とする。

(市長)

構成員に入っているのに相談役にも入っているという状態になっていたため実態に合わせた改正となります。

議事 1:令和4年度事業実施状況

(事務局から令和4年度の実施状況について説明)

質疑応答

(近畿地方整備局大阪国道事務所長)

KPI資料での昨年度人口が53人増加について、要因として新たな住宅の建設等ありましたか。

(事務局)

一昨年はコロナ渦による看護専門学校などの外国人の方などが日本に来られなかったということもございましたが昨年度からは制限も緩和され、留学生も転入することが人口増加につながったと思われます。

(わたしのいえ・ほっこり)

資料12 ページ記載の自動運転車の意見の中に、拠点に限らずどこでも乗り降りできるというカフェミーティングでの意見も入っていますか。

(事務局)

カフェミーティングでの意見も含まれています。そのほか実際に乗られた方の意見も載せさせていただいております。

(わたしのいえ・ほっこり)

自動運転車でも乗り降りを自由にしてほしいという意見もあったと思います。また車両の状態がもう少し強固なものでないと危ないのではないかと。また暑さ・寒さ対策のため、外装のあるものがないという声もあったと思います。

(事務局)

自動運転車が予約なしで運行できるか。また自動運転車が拠点に限らずどこでも

乗り降りできるようにしてほしい、という意見があったことは認識しております。

車両については令和 5 年度事業概要でご説明いたします。

(市長)

他にご意見ないでしょうか。おそらく令和 5 年度事業概要について説明をした後、ご質問いただいた方が円滑に進むのではないかと思います。それでは議事 1 についてお諮りします。議事 1 令和 4 年度の事業についてご承認をいただければと思います。ウェブのご参加の方はリアクションボタンを活用ください。議事 1 についてご賛同の方は、挙手をお願いします。

-採決-

議事 1 賛成多数で可決

議事 2:令和 5 年度事業概要

(事務局から令和 5 年度の実施概要について説明)

質疑応答

(わたしのいえ・ほっこり)

自動運転車を予算から 1 台購入、もう 1 台は借りるというのは決定しているのですか。またそれをどう使うかよりどう決定するか、意見を参考に決めるわけですか。

(事務局)

先日のカフェミーティングで昨年度、実証実験をしたゴルフカートについて、暑さ・寒さ対策、外装がない、安全面などのご意見を受け、候補 2 の車を走らせてみては、という意見をいただいております。一度田原地域内を走らせてから判断したいと考えています。

(田原支所長)

補足させていただいてよろしいでしょうか。事業を実施するにあたって令和 4 年 12 月に計画を立てました。その後カフェミーティング、自治会連絡会、乗られた方等のご意見をお聞きすると、候補 1 以外だけでなく候補 2 も検討してはどうかというご意見をいただきました。それぞれ良い点、悪い点もあります。乗車定員を 4 人のところを 7 人に変更するのは可能と思います。ステップ高については高齢の方や子どもが利用するので考慮が必要です。(候補 1 は地面から乗車時のステップまでの高さが)25 センチ、(候補 2 は)45 センチです。これについてはメーカーに確認しながら、45 センチのほうにスロープをつけられないかも含めて検討の材料になると思います。

また田原台は山を切り開いた地域のため、登坂能力が最大の課題になると思います。当初令和 4 年度に使った候補 1 は 100 メートル進むうち、36 メートル上がれる車種です。候補 2 は雨風や、暑さ・寒さの対策、外装があるといった点で良い、という

ご意見もいただいております。検討の一つになると思います。ただ登坂能力が 8.75 メートルなので田原地域で実装できるかというのが課題の一つになっています。

また暑さ・寒さの対策としてスポットクーラーに近い、外気導入型エアコンがについています。ただし電気で走る車なので、エアコンを使いながらどの程度走るための電気を使えるのか、検証が必要だと思います。

これらのことを令和 5 年度については地域の声を反映させるために、まずは候補 2 を実証実験のなかで採用できるか、事務局として検討しているところです。

(わたしのいえ・ほっこり)

(候補 1,2 以外の)ほかの自動車の可能性はないでしょうか。

(田原支所長)

ほかの候補としてフランス製の価格が 4000 万円以上するものもあります。そこらは検討もしましたが、乗車人数 15 人のため普通免許での運転ができないため難しいです。令和 4 年度の実験では 6 人乗りでも満車になることはほぼなかったため、大きな車両を導入するのは厳しいと考えます。

(わたしのいえ・ほっこり)

登坂能力 5 度で(走れるか)は実験しないとわからないということでしょうか

(田原支所長)

(候補 2 については実際に走らせられるか、)実験だけではなく地域で実装させるのが最終目的なので、地域のなかで地域の意見を取り入れながら検討していきたいです。当初 12 月に考えていたものより柔軟に、まずは候補 2 が地域で走ることができるか。候補 2 を走らせる期間は短くなるが実際に走らせ、検証してから車両の選定に入りたいと考えています。

(市長)

補足します。支所長が話しづらくしているのは、我々行政機関は 1 年度ごとに国などから交付金、補助金を令和 5 年度に関するお金という形で 1000 万円という大金をもらっています。地域の方が望む、外装のあるバスを走らせられるかわからないうちから購入はさすがにできません。走らせる実験をして、年度を過ぎてしまった場合にお金の扱いをどうするのかという非常に難しい問題が絡んできますので、少し答えづらくなってしまっていました。ただ思いとしては地域の声を反映させたものを導入させたい。スケジュールも含めて慎重に対応できればと考えています。

(わたしのいえ・ほっこり)

課題 3 の地元意見に対する検討案。もう少し柔軟に自動運転の場合も乗降ができるようにするのででしょうか。

(事務局)

自動運転の乗降場所についても道路交通法の範囲で乗り降りできる場所であれば、可能な範囲でできるよう検討したいと考えています。

(市長)

よろしければ警察の方からもご発言いただけますでしょうか。

(四條畷警察)

乗降場所は府警本部とも協議したうえで、実験段階では決めています。やはり一番危ない場所は乗降場所になります。降りてすぐ横断されるなど危険な状態が生まれやすいです。そういった場所を設けることは非常にリスクが大きくなります。私たちがお願いしたいのは敷地内などの安全な場所で乗り降りしていただきたいです。どこでも乗降できるか、というのはなかなか難しく、一番確保しなければならないのは安全です。利便性よりも安全性なので、乗降場所については意見も踏まえながら検討したいと考えております。

(市長)

突然のお願いにもかかわらず、ご発言いただきありがとうございます。

(わたしのいえ・ほっこり)

6 ページ資料に記載されている(自動運転実装に向けた主な事業)内容の詳細を説明していただきたいです。

(田原支所長)

議論になっている車種の問題はまず、地域のなかで走れる車かどうかを検証してから購入に向けての手続きとなります。また事業の進捗具合は慎重に取り扱う必要がありますので、関係機関と調整し、地域の声を聴きながら、地域主体のまちづくりに向けて頑張っていきたいと考えております。まずは車種の検討、それから購入に向けてというスケジュールを関係機関等と調整し、考えております。

(市長)

質問の意図は各項目で何をしていくのかについて。今の説明は1行目の説明だと思いますので2行目以降の項目もお願いします。

(田原支所長)

2 行目の「実装支援委託は実装に向けて」は運転する地域の方向けのマニュアル作成や車種選定も支援に必要です。また運行するにあたり道路管理者などの関係機関との資料作りなどの調整になります。

3 行目の「自動運転の操作者研修」は最終的に地域の方に運行をお任せすることになるので、地域ボランティアの方の育成費用です。令和4年度末時点で約30人登録していただいておりますが、まだ少ないと考えています。(自動運転を実装している)大阪府の河内長野市では登録は約50人で週2、3日運行している状況です。そのための費用です。

4 行目「デマンド車両の借上」は今回の協議会や地域の意見をお聴きするカフェミーティングの内容を反映させ、実証実験で活用する車両の借上げ料です。

借り上げについては、地域の意見を反映させた車両を使い、活用したいと考えてお

ります。

(わたしのいえ・ほっこり)

デマンドは借りるんですね。今度実証実験をするときのイメージがわからないので。

(田原支所長)

今回の実証実験は、当初の予定では車両を購入した後に自動運転車とデマンド車を地域主体の実証実験をするという予定でした。その後追加検討したほうが良いとご意見をいただき、車種の候補 2 を検討し、購入したうえで実証実験となるので、若干スケジュールが遅れる可能性がでると考えています。

(わたしのいえ・ほっこり)

それぞれの車は別々の時期に行うのですか。

(田原支所長)

地域の声を聴き、候補 1、候補 2 を検討し、まず車種を確定したいと思っています。

(市長)

私からお答えします。自動運転車と低速電気自動車を一緒に実証運行するのかという質問だと思います。答えづらそうにしているのは、もともとのスケジュールでは車を令和 5 年の秋に購入し、デマンドを借りて、一緒に地域主体の運行をできたはずでした。しかし地域の方の意見である候補 2 の車種では、登坂能力の関係で実際に走れるのかわからない状態です。一緒にやろうにも、先に候補 2 の車種で運行できるかどうかを確かめないと実証実験には至れません。

ただ予算としては、買って、一緒に実証実験を行うとしていたので、走れるかどうかの実証実験として予算をとっておらず、実際にどうしていけるのか難しい状況です。(実装できるかの)確証がないものを買うわけにはいかないのです。しっかりと走れるかを検証したい。それがないうちに実証運行しても意味がないので、それをどう調整するかというのがスケジュールの関係もあり、難しい内容となっております。

(わたしのいえ・ほっこり)

わかりました。検討していくという前向きな姿勢もわかりましたので、納得しました。

(地域自治組織の代表者)

実証実験する車両、デマンドする車両は別の車両ですか。

(田原支所長)

実証実験を関係機関と調整したうえで、車両を候補 2 にするかどうか検討します。候補 2 の車両で田原地域を走れるとなれば、次は自動運転車として候補 2 が可能かどうか、デマンドとして候補 2 が可能かどうかというのを最終決定するとなります。候補 1、候補 2 それぞれを運行するというのは地域の声を聴けていないという形になるので、関係機関とスケジュールを調整した後、同一車種で運行と考えています。

(地域自治組織の代表者)

実証実験とのことですが、車両によって車両幅が変わったり、通行する道路の関係

があると思います。我々は地域住民の代表なので、道路の関係で危険が生じたり、通行ができなかったりといった、安全面がどうなるのかと思っています。特に 3 丁目のあたり、田原台センターに抜ける道路はかなり狭いのではと思います。

(田原支所長)

車両の候補 1、候補 2 については普通自動車に該当します。言い換えますと普通乗用車のサイズ感と考えていただければと思います。車幅については普通乗用車よりスリムになっており、地域内を走るうえでは支障はないと考えております。ただ安全を考えるうえで、警察と協議し、慎重に判断したいと考えております。

(地域自治組織の代表者)

未利用地の調査で候補地 1,2 については資料に記載があり、どのように使えるかなど検証されると思います。田原台センターの土地、キッチンカーのイベントをされたところについては、すでに活用ができるという見込みで資料には掲載していないという理解でよろしいでしょうか。

(田原支所長)

(1、2、3 の説明)

対象地域の 1 は現況が山林のまま、2 についても緑地です。3 の下水道処理用地については、田原地域の下水を西部地域にポンプ圧送するようになった関係で未利用地になったという状況です。ここについては月極の費用が企業会計の都合上発生しますが、利活用できればと考えております。

4 は田原地域の活性化が見込まれる場所なっています。1~3 については四條畷市が所有する土地ですので図示できますが 4 については事業者がお持ちの土地なので、ご提案があれば商業施設が含まれる土地の場合でも、なにか有効活用できないかという提案を所有者へお伝えできるかと考えております。

(地域自治組織の代表者)

利便性と安全性が私も 1 番大事だと思っています。行った先になにかがあるか。移動ができて、その先になにもなければ意味がないので、田原台センターあたりの土地の利活用は大事だと思います。ぜひご協力いただいて進めていただければと思います。

(市長)

貴重なご意見ありがとうございます。人が集積する場所でなければ活用もうまくいかない、活用だけを進めても人が集まらなければ意味がないです。並走して考える必要があると思っています。

令和 4 年度、現時点に至るまで本日ご参加いただいております皆様に各方面のご支援いただいております。金銭面、運用面、安全面、地域主体という形、ボランティア面、またよりよい運行のための様々なご意見、また本市の各部局の職員も来ておりますがそういった皆様の力で一歩ずつ進めているところです。どうしてもいい面があれ

ば、デメリットもある。それを皆様と分かり合いながら進めていくことが重要だと思います。これらを田原台の皆様、協議会の皆様と分かち合いながら進めていくことが、行政として非常に大事だと思っております。

(近畿地方整備局大阪国道事務所長)

車両の登坂能力に関して、私が自動運転車に乗った際、斜面がきつところを上っているという印象があります。住宅勾配として 8.75%を下回っているということでしょうか。

(田原支所長)

走路になりますが、都市再生機構、住宅都市整備公団が整備されたなかで、道路構造例を見ながら大きな勾配をつけないようにしてはいても場所によっては 9%のところもあります。それをどう見るのかがというのは今後の検討課題になると思います。

(大阪国道事務所近畿地方整備局)

かなりギリギリの能力だということで、人を乗せた場合も走れるか、実証実験されるということよろしいでしょうか。

(田原支所長)

田原地域の道路状況とカタログでのスペックの部分とを踏まえ、地域の声を反映していきたいと考えております。

(市長)

貴重な視点からご意見いただきありがとうございます。行政としては安全性を欠いてしまっはいけないので、皆様の意見とどれだけ一致できるかを令和5年度はしっかり進めていきたいと思っております。

(わたしのいえ・ほっこり)

継続する取り組みについて、買い物支援などは実証実験とは関係ないでしょうか。

(田原支所長)

令和4年度実証実験の買い物支援については、地域の中で好評でした。そのなかでやれることからやってみましょう、ということで社会協議会との協力を得て、実装に向けて5月下旬ミーティングをすると聞いています。地域の方たちが地域の公共交通機関を使って、買い物ツアーに行くなど、実装に向けて着実に進んでいるという状況です。

(わたしのいえ・ほっこり)

本協議会で話している内容とコンソーシアムで話している内容とは異なるのですか。買い物支援について、コンソーシアムには記載はあったが、今回は記載されていない。

(田原支所長)

今回は未来技術社会実証がテーマですので実装されているもの、次のステージに行っているものは表記しておりません。わかりにくく申し訳ございません。買い物支援については実装に向け、地域のなかで動いている状況とご理解いただきたいと思っ

ております。

(市長)

基本的に自動運転のご説明や買い物支援、機運醸成のフォーラム、子ども体験教室、スマートフォン使い方教室、畷センサー、桜の開花予測など様々な事業がございます。ただご案内のとおり、令和4年度までの事業支援という中で最終的には実験ではなく、事業にしていけます。田原支所としてすべてをまかない続けると田原支所で新しい事業ができなくなります。できるものからほかの事業者や住民の皆様の力を借りながら、多くの物事を前に進めるというスタンスです。買い物支援についてもご協力いただきやっていった中で、一定方向性が見えてきたので社会福祉協議会を中心に事業化を着実に進めているため令和5年度の事業概要には記載がない、そういった認識でお願いします。

我々としても資料等作る中で至らぬ点もありますので、そういったときはここがわかりづらいと、表現を変えてほしいと意見をいただければ、次年度の改善につなげていきたいと思っております。他にご質問がなければ、質疑を終了します。議事 2 についてお諮りします。議事 2 にご賛成の方は、挙手をお願いします。なお、WEB の方もアイコンでお願いします。

-採決-

議事 2 賛成多数で可決

その他

(市長)

その他、なにかご意見や連絡事項等があればこの場でご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

(大阪府スマートシティ戦略部)

大阪府として、こういった会議に参加させていただくほかに、補助金という形で金銭面の支援もさせていただいております。令和4年度には638万円の支援もさせていただきました。去年に引き続き、今年度も大阪府推進補助金が開始となっておりますのでご案内をさせていただきます。

募集はすでに大阪府のホームページより開始されて、5月31日18時まで。全体の事業費の半分を補助し、1事業あたり1000万円までとなっております。昨年度は自動運転等で採択させていただきましたが、スマートシティ関連の事業であれば幅広く申請いただけます。今年度に限らず、来年度以降にも申請いただければと思います。毎年補助金1000万円をご用意しておりますので、ご活用、ご検討いただき四條畷市の事例が大阪府の先行事例となることを毎年期待しております。引き続きお互いにご協力いただければと思います。

(市長)

力強いお言葉ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。

改めまして、本日はご参加、ご意見をいただきありがとうございました。この取り組みは皆様のお声が重要になります。力を合わせてよりよい田原地域を作り上げてまいりたいと思いますので引き続きのご協力をお願い申し上げまして、会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。

閉会